

## 平成22年度決算を検証

### 2 一般会計歳入

歳入総額は、平成21年度に比べ、3億8,562万円の増となりました。  
**【自主財源】**が11億1,171万円の増。債権管理室を設置し、収納業務の強化を図ったことで、収納率は平成21年度と比べ0.33%向上し、94.28%になりました。また、景気低迷などにより個人市民税が前年度と比べ10%減収したものの、企業吸収合併の売却益にかかる法人市民税の一時的増収があったことも要因です。

**【依存財源】**は7億2,609万円の減。地方交付税は、「雇用対策・地域資源活用臨時特例費」の創設や普通交付税の単位費用の見直しなどにより4億4,592万円増となりました。

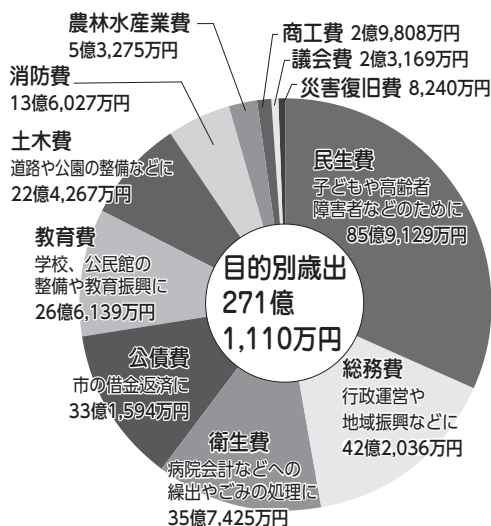
市債は、平成21年度の鴻之台公共施設用地活用事業や消防庁舎・防災センターの整備など大型投資事業の完了や、事業進捗に伴う発行額の減により全体で10億8,830万円の減となりました。

### 検証1 一般会計歳出(性質別)

歳出総額は、平成21年度に比べ、3億9,605万円の増となりました。主な増減としては、**【投資的経費】**で、消防庁舎建設などの大型投資事業の完了に伴い11億6,010万円の減となったものの、**【義務的経費】**で、子ども手当や障害者サービス費などの扶助費の増加などにより、17億9,203万円の増となりました。

このほか、行財政経営の改革として、平成15年度から取り組んでいる**【市政一新プログラム】**に基づき、考査制度による事務事業の見直しや人件費抑制の継続実施のほか、民間活力の導入として進めている保育所の民営化など、各種の改革によって歳出削減の効果も表れています(財政早期健全化計画の取組み効果額10億4,800万円のうち、目的基金の活用を除いた改革効果額は、歳入歳出合わせて6億9,800万円)。

### 3 どんな目的でお金を使ったの? (一般会計 目的別歳出と主な事業内容)



#### 民生費

- ▼障害者サービス費…7億3,642万円
- ▼介護保険特別会計繰出金…7億5,044万円
- ▼子ども手当給付費…12億9,243万円
- ▼民間保育所措置費…7億7,854万円

#### 総務費

- ▼大学跡地有効活用事業…1億8,000万円

#### 衛生費

- ▼病院事業会計繰出金…15億315万円
- ▼伊賀南部環境衛生組合分担金…12億362万円

#### 教育費

- ▼小・中学校耐震改修事業…7億559万円

#### 土木費

- ▼希中央公益施設用地活用事業…7億7,283万円
- ▼一般市道整備事業…1億2,708万円

#### 消防費

- ▼消防庁舎総合整備事業…2億5,873万円
- ▼防災拠点施設総合整備事業…5,549万円

#### 農林水産費

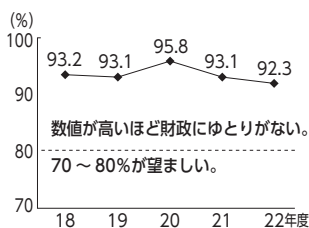
- ▼農業振興対策費…1,925万円
- ▼農業集排水事業特別会計繰出金…1億2,830万円

#### 商工費

- ▼企業立地推進事業…1億5,275万円

### 4 「経常収支比率」は92.3%

財政構造にゆとりがありません



増額されたことや、法人市民税の一時的な増収などによるものです。

人件費や公債費といった経常経費はすぐに減らすことができず、扶助費も増加傾向にあります。収入が増えない限り、あらゆる事業を見直していかなざるを得ない状況にあります。



「経常収支比率」とは、「一般財源」からの支出の中で必ず支出しなければならない人件費や扶助費、公債費などの占める割合を示します。この「経常収支比率」は、80%未満が望ましいとされています。これを超過しているということは、財政構造にゆとりがなく、硬直化していることを示しています。

### 教えてナッキー

財政を知るキーワード



#### 一般財源ってなに?

市税や地方交付税など市が受け取る時点で、使い道があらかじめ決まってお金のことを「**一般財源**」。一方、国から支出される道路建設事業の補助金など、市が受け取る時点で使い道が決まっているお金のことを「**特定財源**」というんだ。

例えば、子どもが親からお金をもらうとき「1ヵ月分の小遣いだよ」と渡されたお金は、いわば一般財源で、「参考書を買うんだよ」と渡されたお金は、特定財源といえるよ。

だから、市が、皆さんのさまざまな要望にお応えしたり、急な出費に対応したりといったことは、一般財源であれば、柔軟に対応できるんだ。そのため、この一般財源をどうやりくりしていくかが、厳しい財政状況を乗り切るための重要な要素なんだね。